



vol.
192

www.tenpla.net
プラネタリウム

突然の臨時休校で時間を持て余すことになる子どもたちに、これを機会にホンモノの科学を届けたい。そんな想いで運営されているのが「休校中の子供たちにぜひ見て欲しい科学技術の面白デジタルコンテンツ」ウェブサイトです。大学や研究機関の広報担当者たちが集う科学技術広報研究会で、自身も小学生のお子さんを持つ基礎生物学研究所の広報担当 倉田智子さんの発案から始まったこの企画。倉田さんのメールの直後から、いろいろな機関からたくさん動画や工作・ゲームなどが集まり、2日もかからずウェブサイト公開という驚きのスピード。twitterでも反響が大きく、新聞やニュースでもたくさん取り上げられました。広報担当に求められる瞬発力を、皆さんがいかに発揮したと言えます。その後もどんどんコンテンツは集まっています。執筆時点(3月17日)で250を超えています。

今月のお題

科学コンテンツのチカラ

臨時休校に合わせて、研究機関・大学の広報担当者が力を合わせて「子どもに見せたいコンテンツ」を発信しました。

高梨直統 (東京大学) / 平松正顕 (国立天文台)

超伝導の性質や不思議な生物プラナリアを印象的に伝える映像と共に、国立天文台が提供した映像も人気を博しています。本誌でも紹介していただいた、アルマ望遠鏡と電波天文学の面白さを伝える短編アニメ「Why ALMA?」(日本語ナレーション:緒方恵美さん)は、10日間で35,000人と驚くほど多くの方に見ていただきました。その後は、山岡均広報室長、縣秀彦普及室長と私が入り替わりで子ども向けの遠隔授業をYouTubeで配信。講演は普段からたくさんやっている私ですが、完全な遠隔講演は初めてです。普段は聴衆の顔色をうかがいながら言葉を選んで講演していますが、それができない遠隔授業は正直言って不安。しかしYouTube越しのコメントもたくさんいただき、また終わってからの感想も上々で、ほっと一安心でした。

新型コロナウイルスの蔓延と社会基盤の急変、それに伴う社会不安と、私たちはこ



特別授業準備中の平松。国立天文台広報室の映像チームが活躍しました。

れまであまり経験したことのない状況の中にいます。そんな中で、医療とは直接関わらない科学分野にいる私たちには何ができるのか、みずから問いかけて出した一つの答えが教育への貢献だったといえます。明日のお金儲けにはつながらなくても、将来の生活を豊かにするために役立つのが基礎研究。動画配信とウェブサイトはほんの小さな一歩にすぎませんが、科学コンテンツが持つ可能性を感じることでできた一件でした。

科学技術広報研究会
臨時休校対応特別企画

で検索!